

▼ここにスタンプを押そう!

年 月 日

お得な年間パスポート販売中!

埼玉県立川の博物館・埼玉県立自然の博物館
共通年間観覧券のお知らせ

川の博物館では、1年間に何度も入館できるお得な“年間パスポート”を販売しています。有効期間はお買い上げいただいた日から1年間です。川の博物館だけでなく、長瀬にある自然の博物館(長瀬町長瀬1417-1)にも同じパスポートで何回でも入館できます。

また、埼玉県内の下記の博物館・美術館にも割引料金で入館できます。詳しくはお問合せください。

年間パスポート料金 一般 1,500円 学生・高校生 750円

県立博物館・美術館	割引料金	通常価格	割引価格
歴史と民俗の博物館(さいたま市)		300円	⇒200円
さきたま史跡の博物館(行田市)		200円	⇒120円
嵐山史跡の博物館(嵐山町)		100円	⇒60円
近代美術館(さいたま市)		200円	⇒120円

バリアフリー情報

右記の手帳または証明書ををお持ちの方は、入場口にてご提示いただくことで観覧料(入場料)、体験施設(アドベンチャーシアター、荒川わくわくランドなど)の利用料金、駐車場料金が免除となります。また、その介助者1名も免除となります。

- 身体障害者手帳
 - 療育手帳
 - 精神障害者保健福祉手帳
 - 障害福祉サービス受給者証
 - 特定医療費(指定難病)受給者証
 - 特定疾患医療受給者証
 - 被爆者健康手帳
 - 戦傷病者手帳
 - 介護保険被保険者証(要介護又は要支援認定を受けている方のみ)
- ＜詳しくはお問合せください＞

開館時間

通常期 9:00~17:00
夏休み期間 <平日>9:00~17:30
<土・日・祝と8/11~8/15>9:00~18:00
(入館は閉館30分前まで)

休館日

月曜日(祝日・振替休日・県民の日・7/1~8/31は開館)
年末年始(12/29~1/3)
※ゴールデンウィーク期間中は開館
※施設設備の集中保守点検に伴う臨時休館があります。

観覧料(入場料)

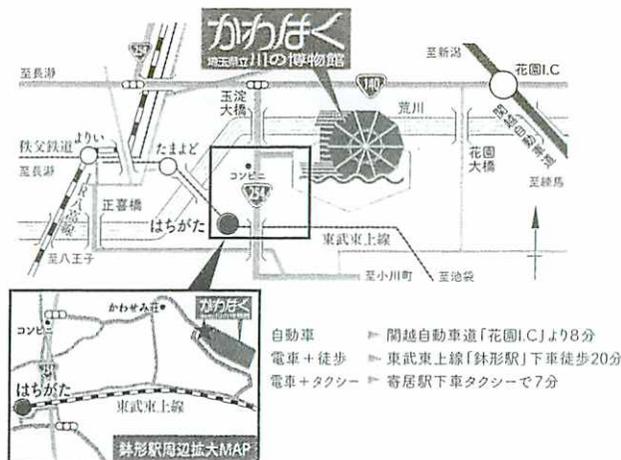
一般 410円(240円)
学生・高校生 200円(120円)
※()内は20名様以上の団体料金
※中学生以下は無料

施設利用料

荒川わくわくランド
高校生以上 210円 4歳~中学生まで 100円
※4歳以上が対象の施設です。
※荒川わくわくランドは閉園期間がございますので、詳しくはお問合せください。

アドベンチャーシアター
高校生以上 430円 4歳~中学生まで 210円
※4歳以上が対象の施設です。
※安全装置の関係でご利用をご遠慮いただく場合があります。
※荒川わくわくランド及びアドベンチャーシアターには定員がありますので、ご利用できないこともあります。

駐車場 普通車300円 バス1,020円
※障害者手帳をお持ちの方は全ての施設が無料になります。
詳しくは「バリアフリー情報」をご覧ください。



自動車 ▶ 間越自動車道「花園I.C」より8分
電車+徒歩 ▶ 東武東上線「鉢形駅」下車徒歩20分
電車+タクシー ▶ 寄居駅下車タクシーで7分

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町小園39
39, Kozono, Yorii-machi, Saitama Pref, 369-1217 JAPAN
TEL.048-581-7333 FAX.048-581-7332
<http://www.river-museum.jp/>

埼玉県立川の博物館

施設のご案内

感じる
見ると
知ると

川を
体感する
博物館



かわはく園内マップ

大陶板画 川合玉堂画
「行く春」
日本画の大型美術陶板。
荒川に浮かぶ船車を
モチーフに描かれています。



本館

第1展示室では、鉄砲壺などの常設展示があり、第2展示室では特別展・企画展などが行われます。また、各種イベント、ワークショップ、体験などを行います。
※アドベンチャーシアターはこちらにあります。



水車小屋広場

かつて荒川流域で使われていた2つの水車を移築復元しています。



噴水広場

美しい水の造形を作り出すリング噴水・ピーコック噴水・フォグ噴水があります。その隣には、4歳未満のお子様を対象とした親水施設の「たぎたぎ島」「ちゃぶちゃぶ島」があります。



大水車

直径23m! 川の博物館のシンボルです。
※2019年秋に向けて改修が予定されています。

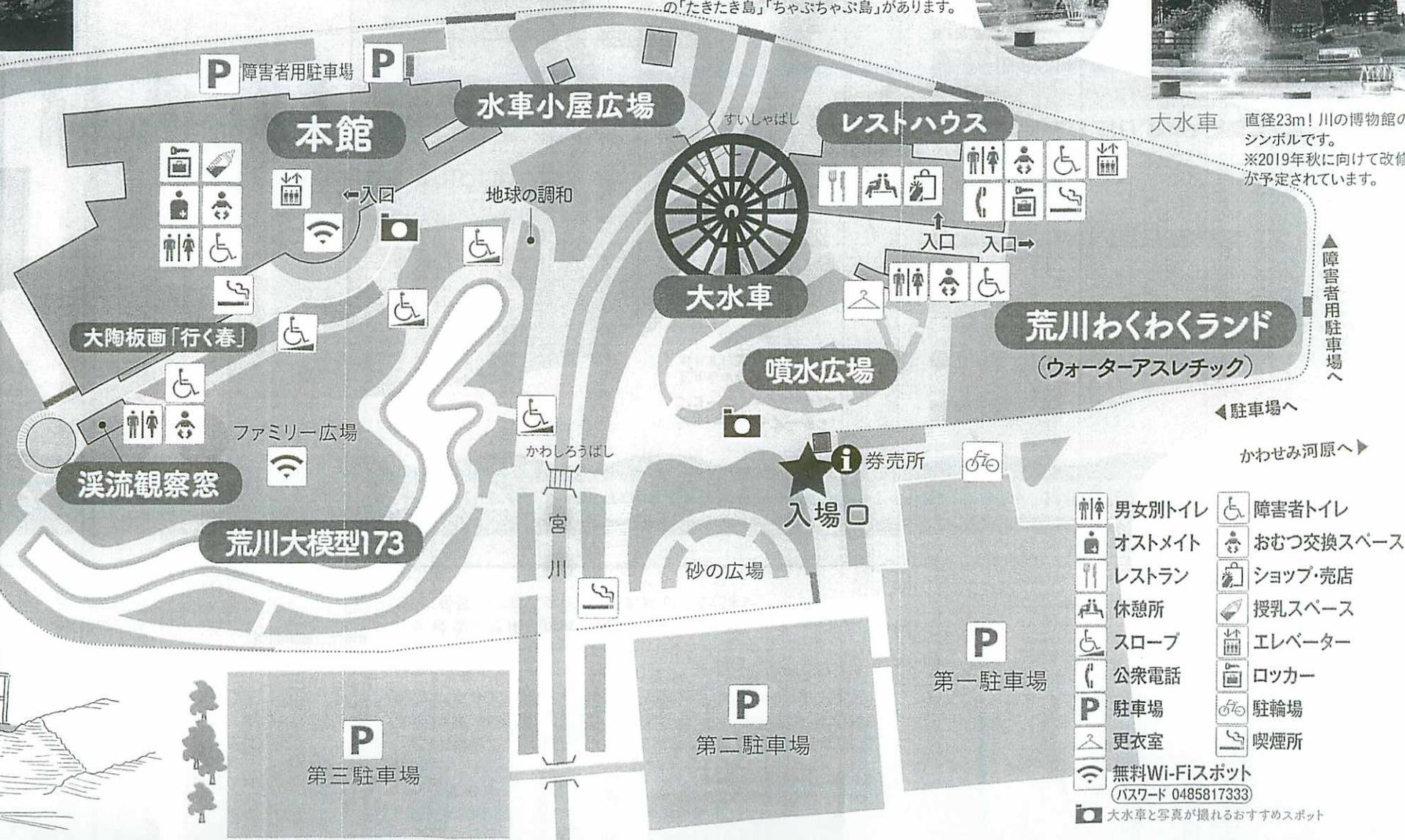


溪流観察窓

川に棲む生き物を観察できるミニ水族館

荒川大模型173

源流域から東京湾までの荒川流域の地形を1,000分の1の縮尺で再現した、日本一の屋外形模型。
(2018年3月にリニューアルオープン)



▲障害者用駐車場へ

←駐車場へ

かわせみ河原へ▶

- | | | | |
|--|---------------------------------|--|-----------|
| | 男女別トイレ | | 障害者トイレ |
| | オストメイト | | おむつ交換スペース |
| | レストラン | | ショップ・売店 |
| | 休憩所 | | 授乳スペース |
| | スロープ | | エレベーター |
| | 公衆電話 | | ロッカー |
| | 駐車場 | | 駐輪場 |
| | 更衣室 | | 喫煙所 |
| | 無料Wi-Fiスポット
パスワード 0485817333 | | |
| | 大水車と写真が撮れるおすすめスポット | | |

2 川と船で栄えた町 — 荒川・新河岸川の河岸一覧 —

深谷 ■

江戸時代になると、江戸に物資を送るための航路が開発されます。海においては、大阪や東北などからくる航路が開発され、各所に港が設けられました。一方の川においては、農村と江戸を和船が行き来し、航路の要所には河岸が設けられました。河岸は、船着場を持つ町のこと、荷物の積み下ろしなどで物流が盛んになり、地域の商業の中心地として栄えました。荒川・新河岸川においても、江戸へ直接物資を運ぶ手段として、大型の高瀬船をはじめとした荷船が活躍し、多くの河岸が設けられました。

▲ 甲武信岳



河岸では、船で運ばれる荷物の行き来が盛んです。荷物の運送は、河岸問屋と呼ばれる卸業者が仲介し、船を持つ船頭に依頼したり、河岸問屋自ら船で運ぶ場合もありました。新河岸川の舟運で栄えた川越の河岸では、特産品であるサツマイモを船で送り、江戸で人気となりました。川越からは浅草行きはやおねの早船と呼ばれる定期船があり、4～5日をかけて往復しました。荷物の運賃は運ぶ物や季節によって異なります。運送主に支払われる運賃とは別に、河岸問屋にはこうせん口銭と呼ばれる手数料が支払われました。

川越(五河岸) — 浅草(花川戸河岸)間の積荷・運賃表

航路	日数	積荷	単位	運賃(夏)	運賃(冬)	口銭
浅草→川越 (上り)	早船 2日 (明治12年)	油	39駄	1両	1両	32文
		綿	39駄	1両	1両	32文
		太物	39駄	1両	1両	32文
		藍玉	39駄	1両	1両	32文
		酒酢	50駄	1両	1両	20文
		魚	54駄	1両	1両	24文
		塩	1盃	銀44匁	銀44匁	550文
川越→浅草 (下り)	早船 1日 (明治12年)	俵物	10駄	800文	1貫100文	24文
		醤油	1樽	15文5分	17文5分	3文
		綿実	10駄	1貫224文	1貫424文	32文
		銭片山	1駄	260文	260文	24文
		素麺	10箱	450文	450文	11文
		炭	1俵	12文	13文	3文
		石灰	1俵	11文	11文	3文

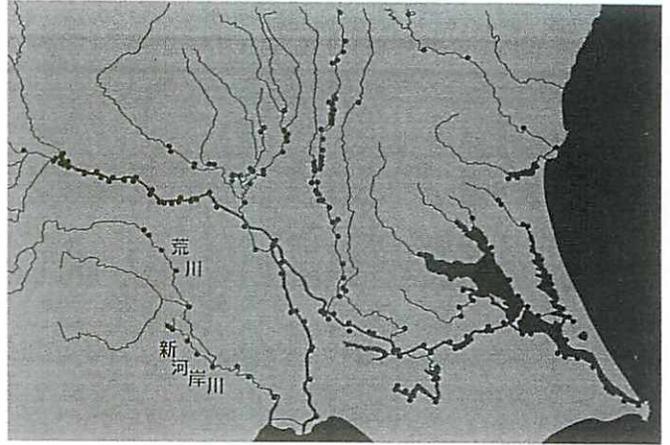
*『遠藤家文書』『川越市史 資料編 近世Ⅲ』1972より作成

*日数は、齋藤貞夫『川越舟運』および遠藤家蔵『早船運賃改定広告』明治12年を参考にした。

*金1両=銀60匁=6.5貫=6500文(天保13年公定相場)

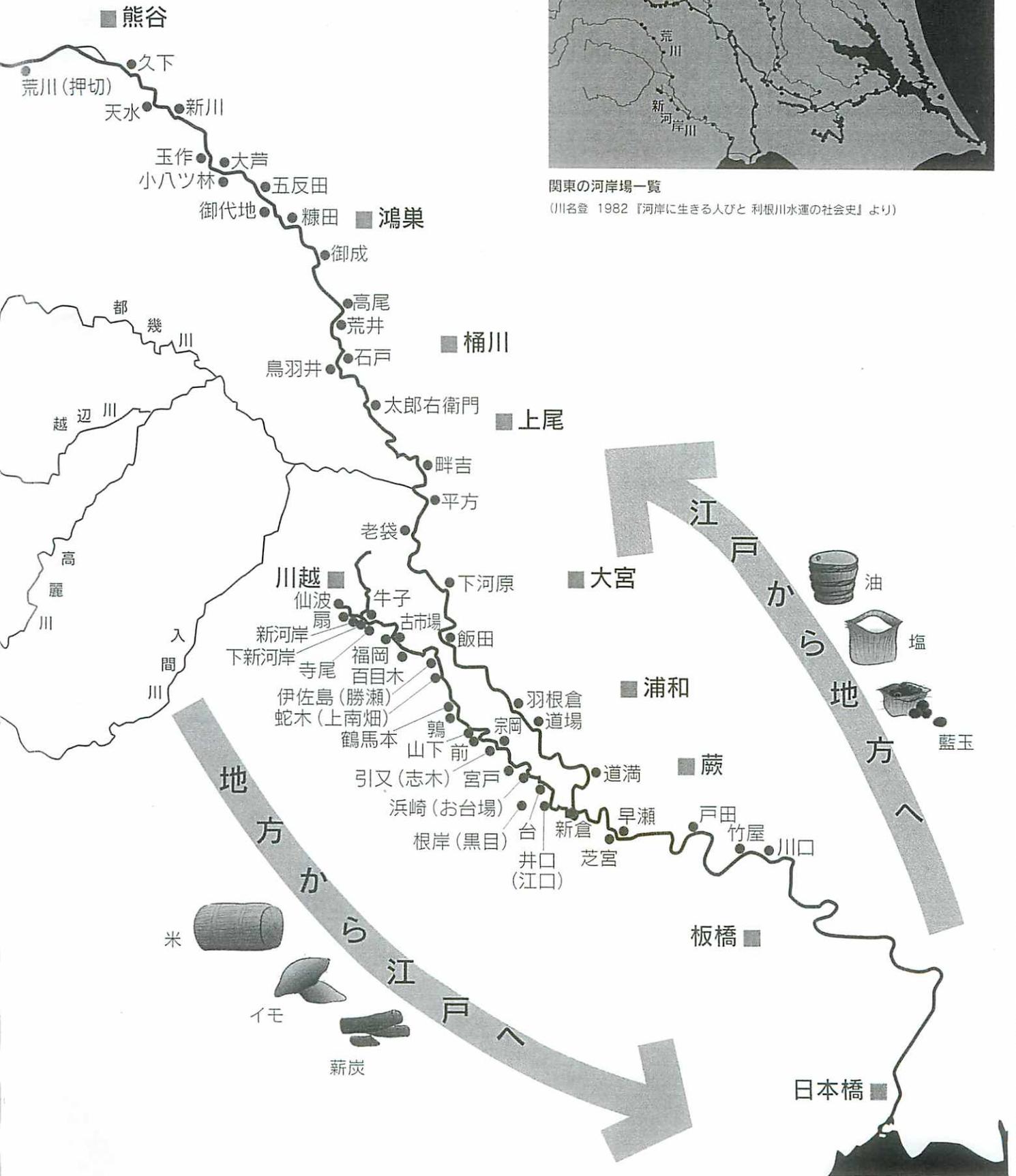
荒川・新河岸川の河岸場一覧

戸田市立郷土博物館 2003 『戸田河岸と荒川の舟運』
第19回特別展図録より引用



関東の河岸場一覧

(川名登 1982 『河岸に生きる人びと 利根川水運の社会史』より)



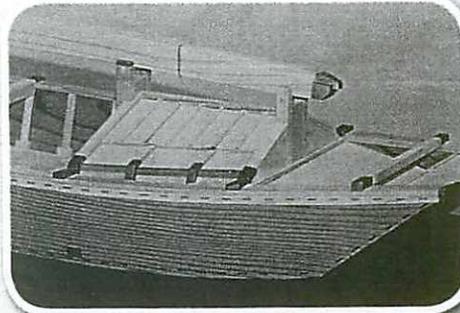
1 物流を支えた船たち

たくさんの荷物を運ぶことができる船は、江戸時代の物流の主役でした。米や炭などが江戸の町へと運ばれた一方で、魚や肥料を農村へと運び、人々の暮らしを支えていました。

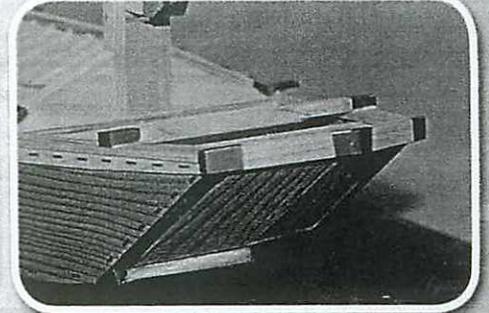
和船ファイル No.1

高瀬船 [たかせぶね]

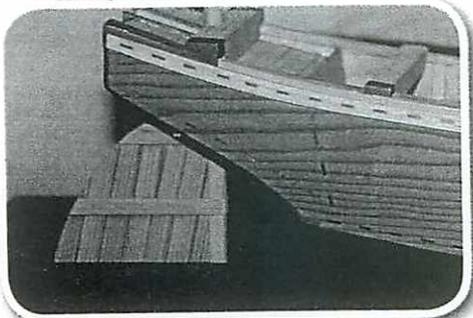
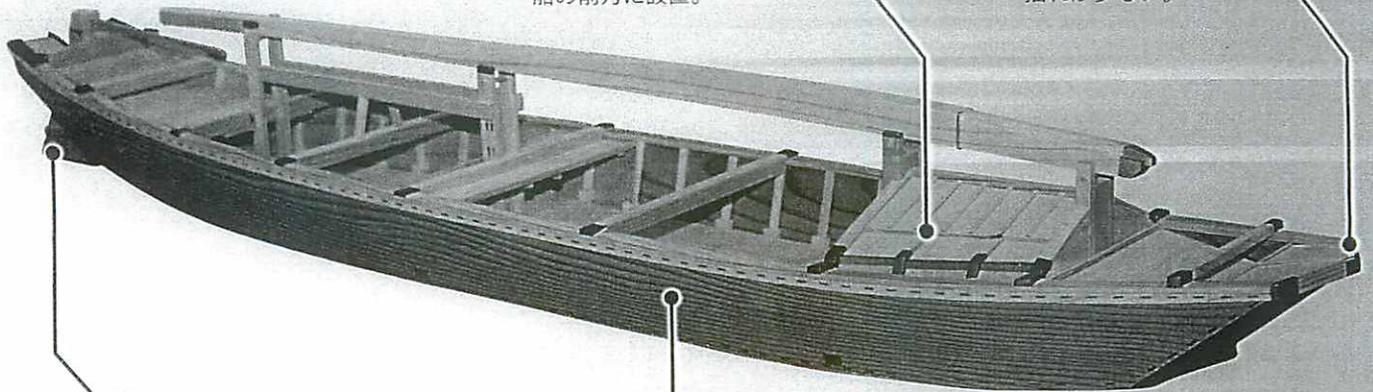
高瀬船復元模型 1/30
江東区中川船番所資料館蔵



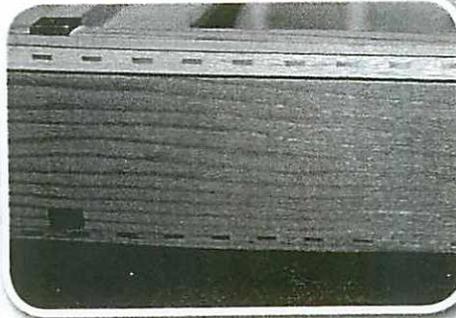
●世事—食事などをとる場所。
船の前方に設置。



●船首—平たい二枚立板。
揺れが少ない。



●舵—方向を決める。扇形で深さがある。



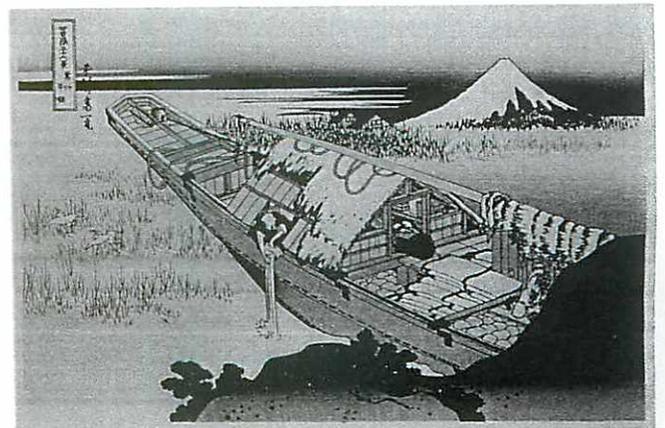
●舷側—柵板は一枚のみ。大きさに比べて浅い造り。

基本データ

種別：荷船（旅客船）
船首：2枚立板
舷側：1枚柵板
航行方法：帆（櫂、棹）
全長：9.4～26.7m（最大）
横幅：2.3～5m

利根川・荒川流域を航行した大きな荷船です。その大きさは、全国の川船のなかでも最大級でした。高瀬船は、大量の荷物を数日かけて運ぶため、船内で生活するための世事や、風を利用して航行するための帆がつけられていました。一方で、森鷗外の小説で有名な『高瀬舟』は、関西の高瀬川や淀川にあった小船で、形態も異なります。

富嶽三十六景 常州牛堀（千葉県立閩宿城博物館蔵）
利根川を航行する高瀬船を描いたものです。船乗りが世事から体を出して、米のとぎ汁を捨てる姿が見えます。船での生活をうかがうことができる資料です。

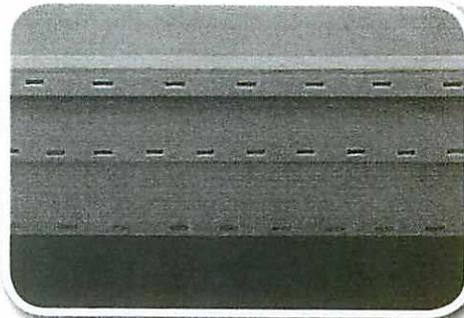


和船ファイル No.2

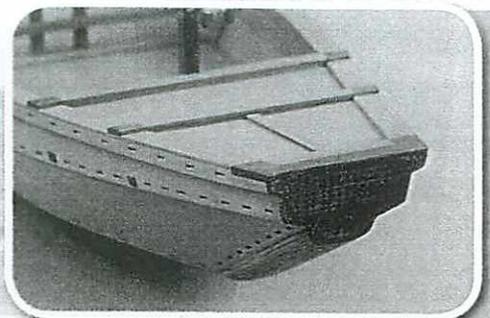
漕船

【ひらたぶね】

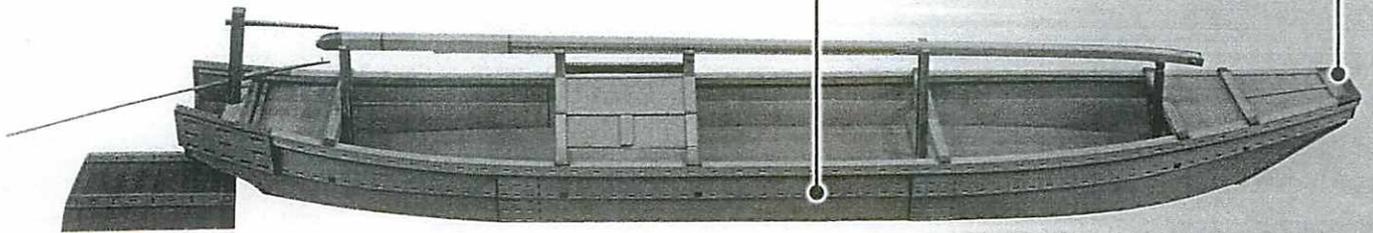
漕船復元模型 1/20
川越市立博物館蔵



● 棚板 — 棚板が二枚付く。
高瀬船よりも深い造り。—



● 船首 — 鋭い水押し。水を切って進むため速度が出る。



基本データ

種別：荷船、旅客船
船首：本水押し
舷側：2枚棚板
航行方法：帆（櫂、棹）
全長：15.4～23.3m（川越漕）
横幅：3～4.4m（川越漕）

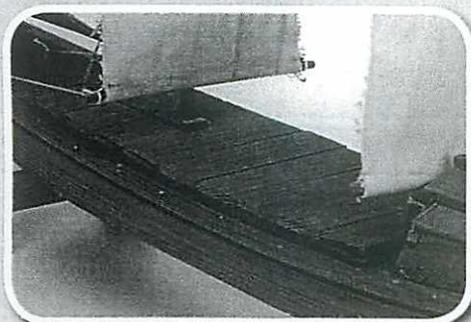
高瀬船に次ぐ大型船です。高瀬船と似た形をしています。船首や世事の位置に違いが見られます。荒川・新河岸川で活躍した川越漕は、高瀬船とは異なり、船首が水押しで、世事も船の後方についています。夜に出航して、朝に江戸につく川越の船は、川越夜舟として親しまれていました。

和船ファイル No.3

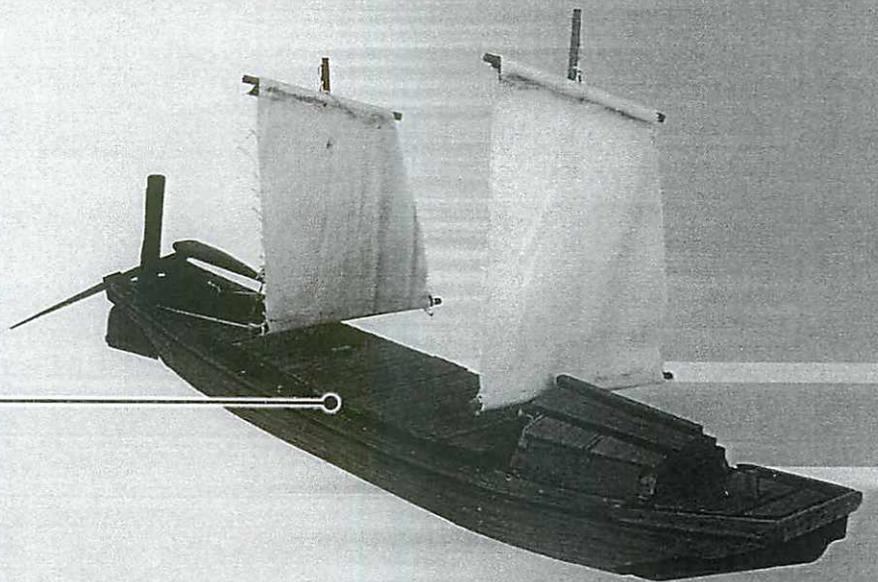
肥船

【こえぶね】

肥船復元模型 約1/20
戸田市立郷土博物館蔵



● 蓋 — 下肥がこぼれないよう船の胸部を覆う。



基本データ

種別：荷船
船首：本水押し
舷側：2枚棚板
航行方法：帆、櫂（櫂、棹）
全長：8.3m
横幅：2.3m

農家に下肥しもごえを運ぶ船です。下肥とは糞のことで、江戸時代において下肥は貴重な肥料として、農作物や金銭と取引されていました。肥船の特徴は、船に下肥を入れるための蓋付きおけの槽が造りつけられていることです。こうした蓋や槽には、においが強く虫の寄り付きづらいかやが使われることが多かったようです。高瀬船などを転用することも多く、船の形態は様々でした。

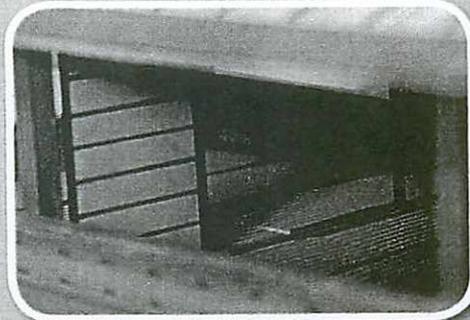
2 町を彩る船たち

船の活躍は荷物を運ぶことだけに留まりません。江戸の町では人々の娯楽となる船や、生活の一部となる船など、様々な種類の船が暮らしを彩っていました。

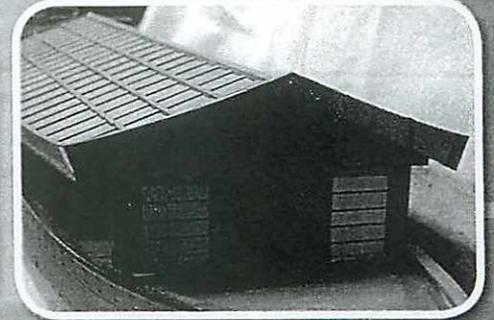
和船ファイル No.4

屋形船 [やかたぶね]

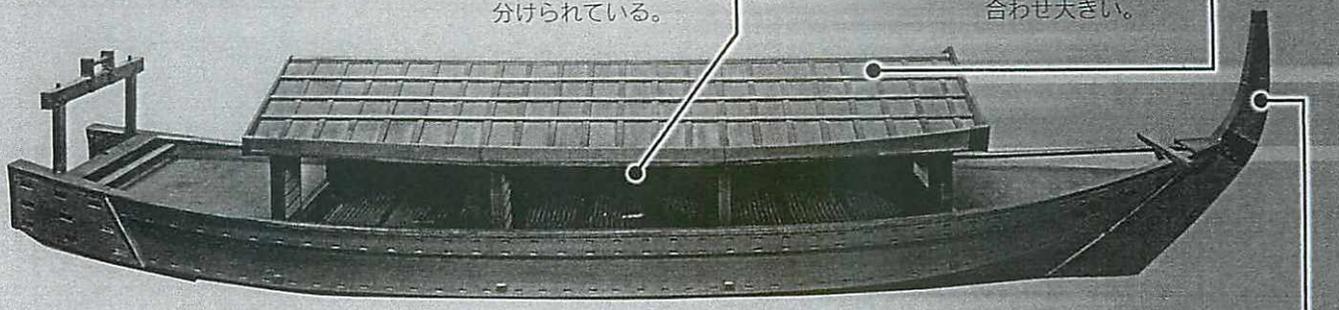
屋形船復元模型 1/20
船の科学館蔵



●船内—座敷が襖で三間に分けられている。



●屋形—装飾が施され、船に合わせ大きい。



●船首—大型の水押。水切りよりも、飾りの要素が強い。

基本データ

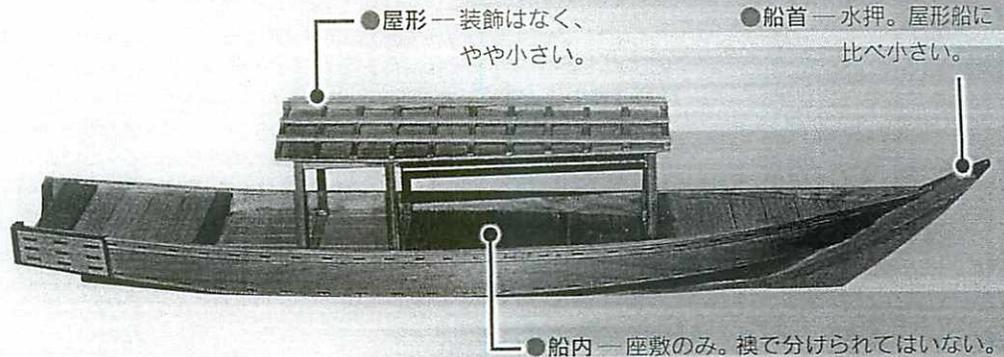
種別：旅客船（遊山船）
船首：水押
舷側：2枚棚板
航行方法：帆（櫂、棹）
全長：8.3~15m
横幅：2.7~4.2m

船遊びのための旅客船（遊山船^{ゆさんぶね}）です。船には装飾された屋根が付けられ、船内に設けられた座敷は、襖で複数に分けられています。屋形船は、遊山船の中でも特に豪華なもので、お金持ちの商人や武士などの限られた人々だけが利用することができました。屋形船は、江戸の人々にとって特別な娯楽であったと言えます。

和船ファイル No.5

屋根船 [やねぶね]

屋根船復元模型 1/30
江東区中川船番所資料館蔵



●屋形—装飾はなく、やや小さい。

●船首—水押。屋形船に比べ小さい。

●船内—座敷のみ。襖で分けられてはいない。

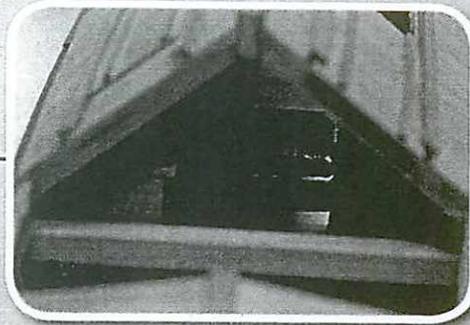
基本データ

種別：旅客船（遊山船）
船首：水押
舷側：2枚棚板
航行方法：帆（櫂、棹）
全長：9.1m
横幅：1.8m

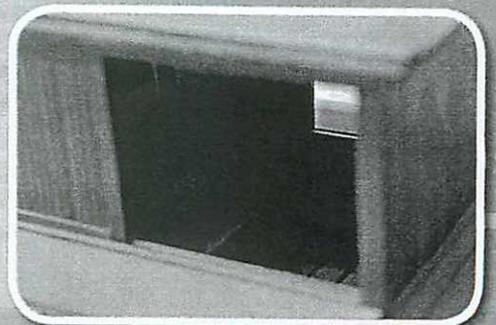
屋形船と同じ遊山船です。屋形船にくらべ、船内に襖がないなど簡素な造りをしています。手軽に船遊びが楽しめた屋根船は、町人などの庶民にも親しまれる乗り物でした。江戸でせいたくが禁止されるようになると、豪華な屋形船に代わって、屋根船が多くみられるようになりました。

湯船 [ゆぶね]

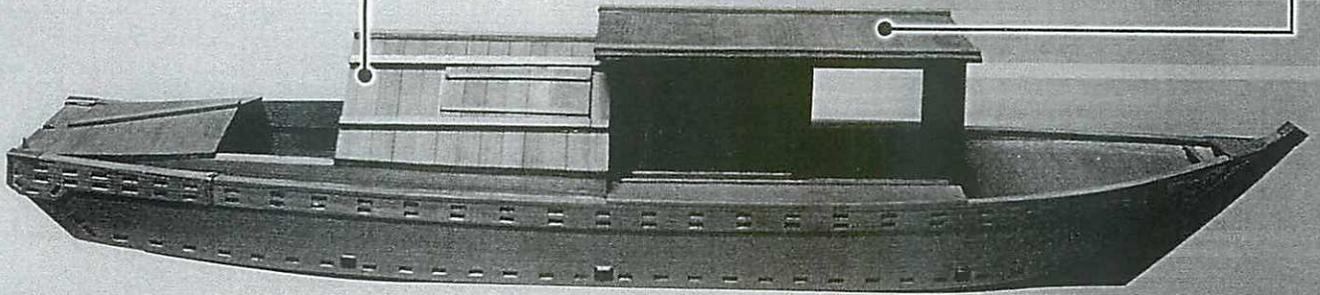
湯船復元模型 1/20
船の科学館蔵



●火焚き場—風呂を沸かすための釜。



●風呂場—脱衣所とその奥に風呂場がある。



基本データ

種別	旅客船
船首	水押
舷側	2枚棚板
航行方法	帆、棹
全長	6.4m
横幅	2m

風呂を取り付けた船です。船の中央に付けられた箱型の風呂場には、脱衣所と浴槽があり、その後ろに取り付けられた釜で湯を沸かす仕組みになっています。湯船はお金を払って入る移動式の銭湯のようなもので、水辺で暮らす人々や船の船頭たちが利用しました。現在でも使われる「湯船につかる」という言葉は、この船が由来になっています。

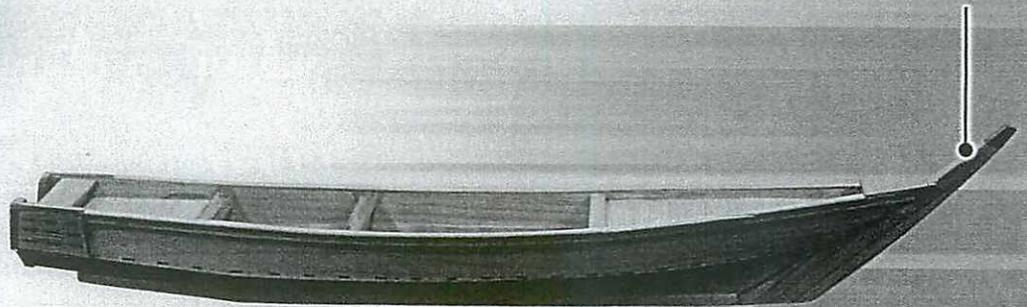
猪牙船 [ちよきぶね]

猪牙船模型 1/30
江東区中川船番所資料館

基本データ

種別	旅客船
船首	水押
舷側	2枚棚板
航行方法	櫓（櫂、棹）
全長	7.3m
横幅	1.2m

●船首—水押。屋形船に比べ小さい。



江戸の町を航行した快速旅客船です。吉原に遊びに行くときなどに利用された、江戸時代の水上タクシーといえます。速度を出すために船の幅が狭く、揺れを大きくすることで、櫓漕ぎの推進力を大きくしました。猪牙船の由来は、猪の牙に形が似ていることや、^{ちようきち}長吉という大工が作った船であるからなど諸説あります。



高瀬船…幅が広く先が平たい。



猪牙船…幅が狭く先が尖っている。

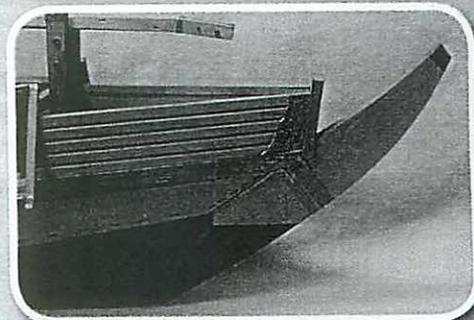
3 海と川をつなぐ船たち

江戸には、海から荷物を運んでくる船もたくさんいました。海船の荷物を江戸の河岸に取り次ぐ船がいた一方で、海から直接川へ乗り込んでくる特殊な海船もありました。

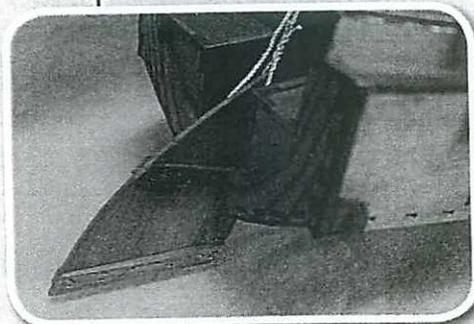
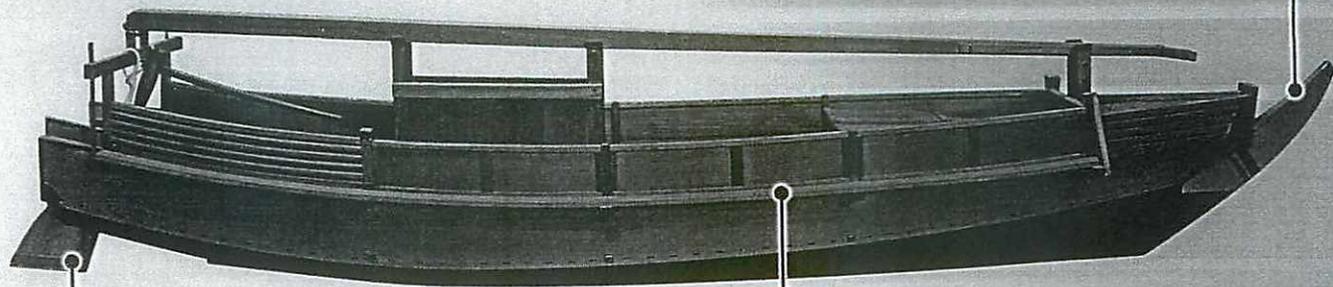
和船ファイル No.8

五大力船【ごだいきふね】

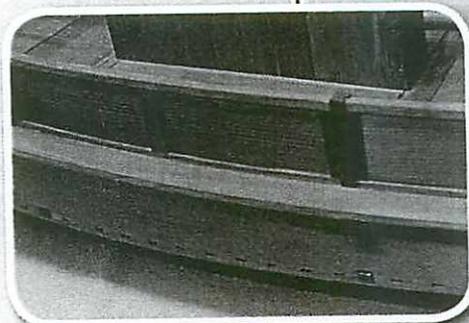
五大力船復元模型 1/20
船の科学館蔵



●船首—水押。海船の多くは波を切るため水押が付いていた。



●舵

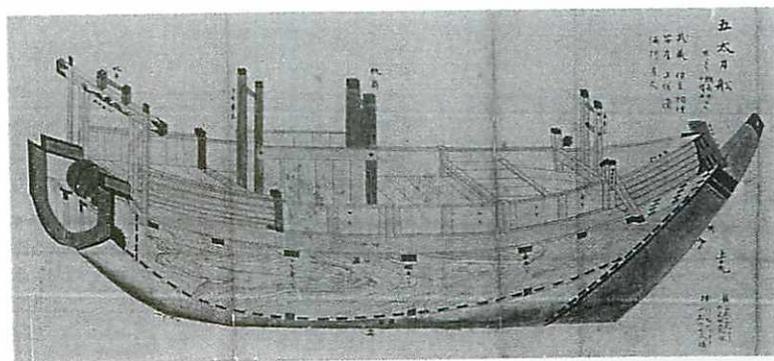


●棹台—棹を扱うための台。
川を進む時に使用した。

基本データ

種別：荷船
船首：水押
舷側：2枚棚板
航行方法：帆、棹（櫂）
全長：9.4～19.4m
横幅：2.7～5.1m

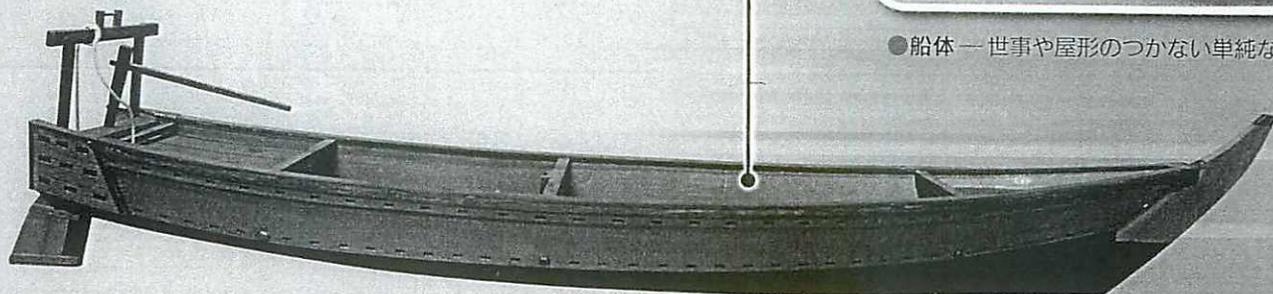
江戸近郊の海を航行した廻船^{かいせん}です。五大力船は海船ですが、その中では小型であったため、海から直接川に乗り入れることができました。川を航行する際に、棹を使用するため、船の両端に棹を扱う漕ぎ手が乗るための台がついていました。積荷には、米穀や薪炭などの日用品が運ばれてくるが多かったようです。



五大力船（『船鑑』より引用 写真提供：船の科学館）

瀬取船【せとりぶね】

瀬取船復元模型 1/20
船の科学館蔵



●船体 — 世事や屋形のつかない単純な構造。

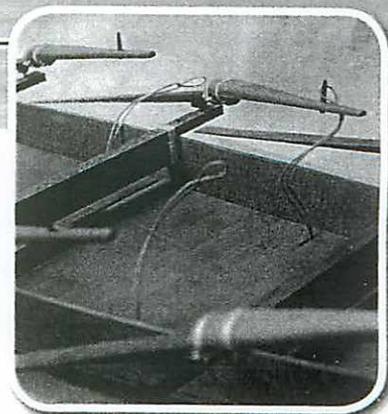
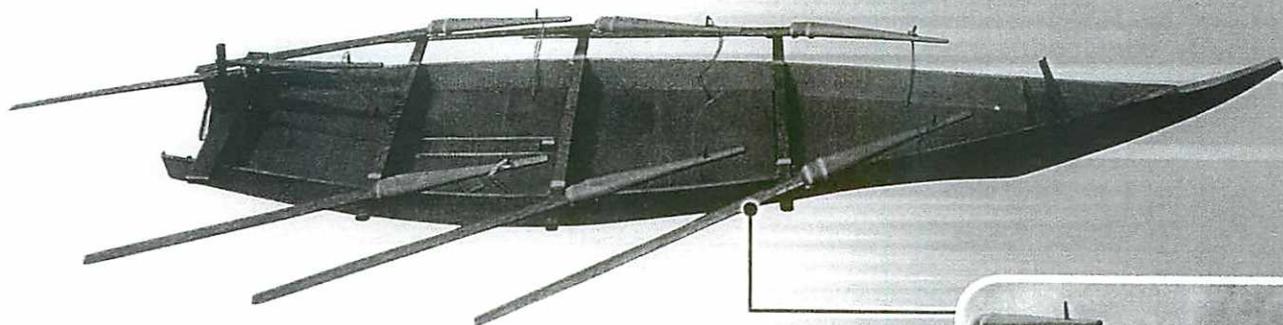
基本データ

種別：荷船（積み荷移し替え用）
船首：水押
舷側：2枚棚板
航行方法：帆、櫓（櫂、棹）
全長：7.7~12.4m
横幅：2.3~3m

海船の積荷を載せ替えて江戸へ運ぶ船です。海船の多くは、大型で深い造りをしているため、江戸の川に直接乗り入れることはできませんでした。そのため、川の手前で泊まる海船の積荷を瀬取船に載せ替え（この作業を瀬取りと呼ぶ）、江戸の河岸へと運んでいました。海船が入れるのは、永代橋えいたいばしの手前までだったといわれています。

押送船【おしおくりぶね】

押送船模型 1/20
船の科学館蔵



基本データ

種別：荷船（鮮魚専用）
船首：水押
舷側：2枚棚板
航行方法：櫓（棹、櫂）
全長：10.3~13.7m
横幅：2.7m

漁村から江戸へ鮮魚を運んだ船です。江戸近郊の海を航行した海船ですが、浅く細長い形をしているため、川に乗り入れて、直接河岸まで行くことができました。押送船の特徴は、帆だけでなく、船の両脇に付けられた櫓を漕いで進むため、風向きに関係なく航行できることです。押送という名前は、櫓を押すように漕いで進む姿から付けられています。

●櫓 — 船の両脇に付けられている。

本館フロアマップ



3F 展望台

大水車や荒川大模型173と共に荒川の流れを見ることができます。また、晴天時は群馬県や栃木県の山々も見ることができます。



講座室
体験学習や募集型イベントを行っています。

第2展示室 (企画展示室)

川に関する文化や自然など個別のテーマを設定し、年数回の特別展・企画展を開催しています。

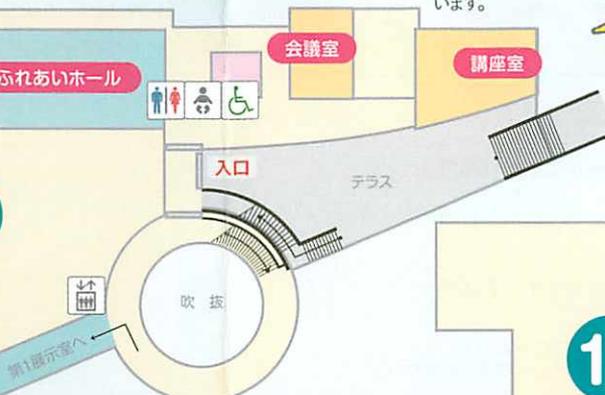


- エレベーター
- 男女別トイレ
- オストメイト
- AED
- 無料Wi-Fiスポット (パスワード 0485817333)
- 障害者トイレ
- おむつ交換スペース
- 授乳スペース

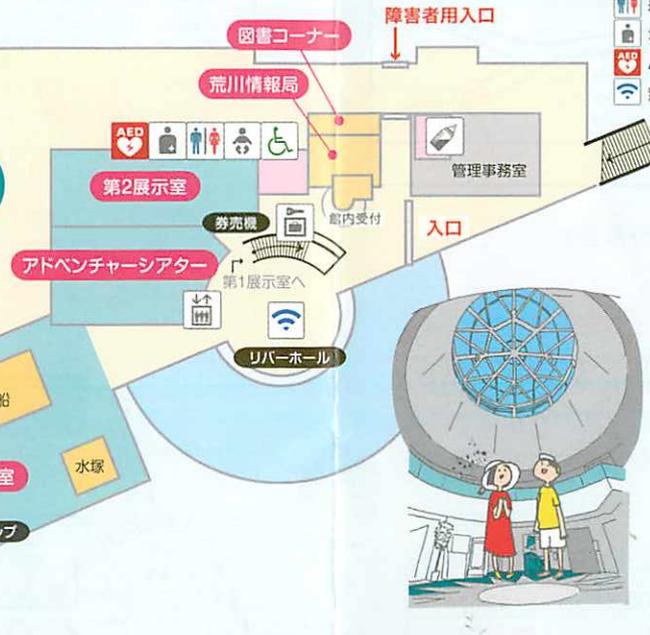


ふれあいホール
講演会やイベントを行っています。

2F



1F



荒川情報局・図書コーナー
川や水と人々の暮らしに関する様々なことを知ることができます。また、図書コーナーには、川や水に関わる本がたくさんあります。



第1展示室 (常設展示室)

2層吹き抜けの常設展示室には、中に入って見ることのできる「荷船」などの大型復元模型、解説や実演とともに映像が上映される大型パノラマスクリーンがあり、「荒川と人々の暮らしの関わり」を紹介しています。

てっぽうぜき 鉄砲堰

秩父山地から切り出した木材を水の流れで下流に押し出すために造られた人工のダム。かつて大山沢にあった鉄砲堰を4分の1の縮尺で再現しています。



鉄砲堰イベント
10:20/12:20/14:20/16:20

ふなぐるま 船車

川船に水車小屋をのせ、川の水力を使って小麦を粉にしていました。



船車イベント
要望に応じて開催

にぶね 荷船

荒川を使って物資の輸送に使われていた船です。埼玉からは米・麦・さつまいもなどの農産物が、東京からは塩・酒・海産物などが運ばれていました。



荷船イベント 11:20/13:20/15:20 (※17:20)
※印は夏休み期間の土・日曜日、8/11～15のみ実施



「荒川大模型173」全景

「荒川大模型173」は、荒川の源流域から東京湾までの地形を1,000分の1に縮尺した日本一の大型立体模型です。

この模型では、荒川流域を、源流域、河岸段丘域、扇状地域、人工河川域、都市河川域の5つに区分し、それぞれの区域の特徴を解説パネルで説明しています。解説パネルの内容はQRコード^(※)を使って、スマートフォンやタブレット端末等に読み込むことができ、音声での読み上げも可能です。

大模型を使用した展示解説「ガリバーウォーク」も行っています。ご希望の方はスタッフまでお声がけください。

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。



大模型で見る、「川幅日本一」エリア



大画面に連動して座席が動くバーチャルシアターです。スリリングな水上の旅が楽しめます。

上映プログラム・上映時間など
詳細はこちら



荒川わくわくランド (ウォーターアスレチック) マップ

荒川わくわくランドは、博物館に併設しているウォーターアスレチックです(荒川わくわくランドのみのご利用はできません)

水の科学的性質(流力・浮力・圧力・抵抗)や治水・利水の学習ができるウォーターアスレチック施設です。



足こぎ水車

ドンブラゴッコにある、自転車のペダルをこぐ形の水車です。水車が回ると音が鳴ります。

ガッチャガン

遠くにある的に、水を当てる大きな水鉄砲です。水が的に入ると何かが起こります。



ザブンドーレの池

子ども用ボートに乗って、水の抵抗を体験しよう。



ふらふらフロート

水に浮かんだフロートの橋です。(浮力の体験ができます。)



シューシューアーチ・シューシューハードル

岩から水が飛び出します。ぬれずに通れるかな。



スルスルカーゴ

ロープの先には滑車がついていて、重さによって滑る速さが違います。



スライスイアメンボ

アメンボ型のボートに乗って、ロープを引っ張って対岸へ行くことができます。(水の摩擦が体験できます。)

開園期間

春分の日～11月中旬まで(冬季は閉園)

開園時間

9:30～16:10
(入園は閉園の30分前まで)

時間ごとの入れ替えを行っております。

入れ替え時間の
タイムスケジュールはこちら



※4歳以上が対象の施設です。

ご注意

- 雨天の場合は閉園となります。
- 荒川わくわくランドはプールではありませんので、着衣の上ご利用ください。遊び方によっては濡れる恐れがありますので、衣類や靴の替えをご用意ください。
- 運動に適した服装や履き物でご利用ください。素足やかかとの離れるサンダルでの利用はご遠慮ください。
- お食事・喫煙はご遠慮下さい。熱中症予防のため、ベトボトル・水筒など蓋のできる飲み物はお持ち込みできます。
- スタッフ(交流員)の指示に必ず従ってください。
- 再入場はご遠慮いただいております。